

## オリパラ教育「実践報告会（地域ワークショップ）」を開催しました。

1月26日、オンラインで今年度のオリパラ教育推進校による実践報告に併せ、オリパラ教育に関する講演を行いました。

今年度の推進校担当のほか、市町教育委員会、「よい、ドン！スクール」認証校からの参加がありました。これまで3年間、島根県のオリパラ教育にアドバイスをいただいていた全国中核拠点の筑波大学にお世話になり、各校の特色ある取組を共有することができました。



### <実践報告>

※ 各校発表スライドの一部を掲載しています。



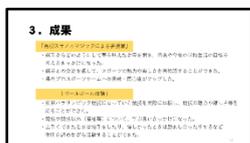
#### 大田市立高山小学校

人権教育参観日に親子でボッチャ競技に挑戦。東京パラリンピックのボッチャ競技の審判として参加された講師からパラリンピックの様子を聞き、障がいやパラ競技への理解を深める。オリンピックによる体操教室を実施し、体操競技の魅力を知るとともに器械運動系の学習につなげる。



#### 吉賀町立柿木小学校

全校生徒がオリンピックの体操教室や車いすバスケットボールに挑戦。それらの経験をもとに、誰もが楽しめるスポーツの創造をめざし「スポーツを創る」という新たな視点で取組を展開し、自分で考え進んで動く子どもたちの育成につなげる。



#### 島根県立出雲養護学校

プロスポーツ選手との交流を通してスポーツや体を動かす楽しさを味わう。プロスポーツ選手への質問を通して、夢をもつことの大切さや生き方を学ぶ。また、東京パラリンピックの競技でもあるゴールボールを体験し、様々なスポーツへの興味・関心を高める。



#### 島根県立益田高等学校

島根県出身のパラリンピアンとの交流及び講演会を実施。また、パラスポーツにも挑戦。オリンピック・パラリンピックの理念や価値を学ぶ。パラスポーツについて体験を通して、障がいやパラ競技、共生社会への理解を深める。



#### 大田市立第三中学校

オリンピックによる講演会を実施。「自立とは」という演題で講演会を実施した後に、柔道体験を実施。コアトレーニングを中心とした体づくりを通して自分自身の体を見つめ直す。また、全校でボッチャ競技にも挑戦し、教職員とともにパラスポーツを楽しみ競技の魅力に触れる。



#### 浜田市立旭中学校

体操、柔道と二人のオリンピックによる講演及び交流を実施。全校の前で、体操部の部員が演技の披露を行い講師が開講するなど「する・見る・支える・知る」などあらゆる角度からオリパラ教育を推進。リモートで推進中学校3校での生徒会交流なども実施。



#### 浜田市立三隅中学校

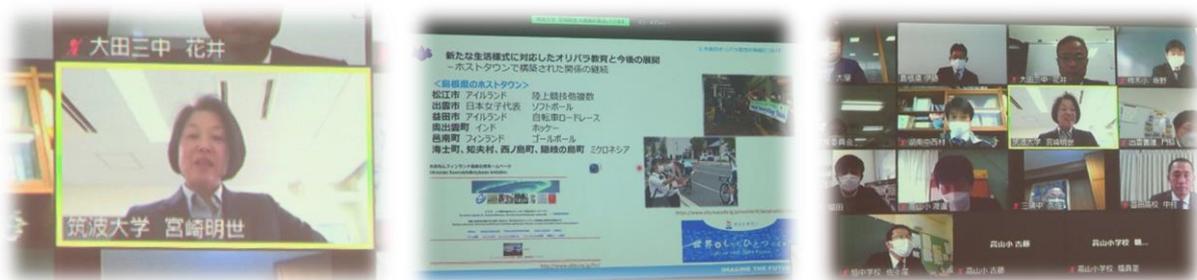
オリンピックによる講演及び交流を実施。オリンピックの柔道技を間近で見たり体感したりした。スポーツ栄養士やアスレチックトレーナーなど食と体づくりの二人の専門家に学ぶ。オリンピックなどのトップアスリートがどのような取組を行っているか具体的な事例から学ぶ。

## <講演演>

島根県では令和元年度から3年間、全国地域拠点としてオリパラ教育推進校を指定し、実践に取り組んできました。この間、筑波大学の関係者の皆様にご指導、ご支援いただきながら取組を進めてきました。そして、この度、筑波大学体育系准教授の宮崎明世氏を講師に、「東京2020の教育的レガシーと今後の展開」という演題でご講演いただきました。

ご講演の中では、地域ならではの取組を大事にすること、地元のスポーツチームや関係団体の協力を得たりホストタウンで構築された外国との関係を大切に継続したりしていきながら、これまで築き上げたネットワークの活用を大切にすることを教えていただきました。そして後半では、オリンピック・パラリンピック教育の今後に向けて、具体的な授業事例を示していただきました。「ジェンダー平等を考える」「スポーツの意義・価値を考える」など子どもたちが、様々な視点で課題に向き合い、考え、議論することの大切さをお話していただきました。

今回の講演を通じてオリンピック・パラリンピック教育の意義や価値について再確認するとともに、各学校の教育目標や実態に応じて、今後のオリパラ教育の具体的なイメージをもつことができる貴重な時間となり、参加者は興味深く聴き入っている様子でした。



## <参加者感想より>

- ・東京2020大会の検証や今後の動きなどについて言及され、まさに聞きたかったことの詳細をご教示いただき、大変ありがたかったです。
- ・スポーツ振興のための教育活動を、本事業が終わった後も継続していくことが大切だと思います。東京2020がレガシーとなるように頑張ります。
- ・「地域ならではの実践」という言葉が心に残りました。本校であれば、地元チームや島根県障がい者スポーツ協会に協力してもらい、今後も学び続けることができると思いました。「オリパラ」と聞くと「体育で学ぶ」というイメージがありますが、教科における教材としての活用(教科教育型)として道徳や社会科、国語等でも実施できることを教えていただき、学校全体で学んでいくものだと思いました。
- ・オリパラ=体育ではないという言葉が印象に残りました。事例や今後の展開についてのお話の中で具体的な考え方も提示されたので、体育以外の学習の中でも、ねらいをもちながらオリパラ教育を展開していくことができると思いました。
- ・オリンピック開催にあたり、指導事例なども見せていただき、今後の参考にさせていただきます。ジェンダーとオリパラ教育や、環境問題とオリパラ教育など、まだまだ可能性があるのだと思いました。

1年延期となった東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催年に、各推進校をはじめ多くの学校現場でオリパラ教育の様々な取組が展開されました。

オリパラ教育は、大会そのものへの興味関心の向上だけでなく、オリパラを題材としてスポーツの価値、国際・異文化理解、共生社会への理解を深めるなど、多面的な教育的価値を持ちます。

この3年間で培った取組事例を参考にして、新しい生活様式に対応したオリパラ教育(オンラインによるアスリート派遣等)も取り入れながら、今後もより多くの学校現場で実践が進むよう支援してまいります。